

十日町市立飛渡第一小学校



学校データ
【学級数】
2学級
【児童数】
6人
【地域コーディネーターの有無】有

「ふるさとを愛し、自立して社会で生きる子ども」の育成

1 はじめに

南に笠置山を臨み、眼下には飛渡川、そして美しいブナ林が眼前に広がる僻地1級地校であり、冬期間の積雪は3mに達する。地域住民は郷土に愛着をもち人情が厚い。学校教育への関心は高く、学校支援組織も充実している。学区は人口減少の傾向にあり、少子高齢化が進んでいるが、市外からの新しい転入や若者が残る家も出てきている。

このような地域の学校として、ふるさとへの誇りや生きる力を育むことを目的とした「ふるさと環境学習」を行っている。本学習は、学校・保護者・公民館・NPO法人・行政機関等、多くの団体と協働して活動を展開している。

2 取組の実際

(1) 飛渡川で遊ぼう

5月、雪が消えた頃、全校で飛渡川に出かけて遊んだ。川の様子や生き物を見付けながら、飛渡川に愛着をもてるよう

にした。6月にも全校でカジカ捕りや石調べ、植物観察などの川遊びを行った。飛渡川で思いっきり遊ぶ中で、どんな活動をしたか全校で考え、「飛渡川の自然を守る」を年間のテーマとした。

(2) 飛渡川の環境を調べよう

子どもたちは、飛渡川の水質と生き物を調べることにした。自然観察員の南雲様を講師とし、中流（学校周辺）で生き物調査を行った。カジカやカジカガエル、トビケラなど、きれいな川に棲む生き物が多くいることが分かった。その一方で、地域の生活排水は直接飛渡川に排水されていることを地域の方から教えていただいた。きれいに見える川の水は本当にきれいなのかを調べるため、飛渡川の上流・中流・下流の水質を調べた。調査方法は、試薬による調査と透視度計を用いた調査を行った。調査の結果、上流は直接飲めるほどきれいであったが、中流・下流に行くにつれて水質は悪く、透視度も低くなっていることが分かった。



川で遊ぶ子どもたち



水質調査の様子

水質調査の結果

	上流	中流	下流
COD 化学的酸素 要求量	2	4	6
DO 溶残酸素	9	8	6
透視度	100	97	93

※生活環境の保全に関する環境基準の類型（環境省）

水質調査の結果

※水道水として利用できるのは3以下

※7.5以上の川にはきれいな川にすむ魚がいる

(3) 飛渡川の環境保全を発信しよう

飛渡川の水質調査から、飛渡川の環境を守っていききたいという思いをさらに高めた子どもたちは川の水を汚さない方法を調べた。飛渡川の現状と川の水を汚さないための方法を多くの人に伝えるため、11月の学習発表会で劇を行い、地域の人に訴えることにした。劇では、実際の画像を映し出したり、クイズなども取り入れたりしながら発表した。

また、地域全戸に配布する「飛渡川リーフレット」を300部作成した。作成にあたり、信濃川大河津資料館の樋口様から指導をいただいた。リーフレットは地域全戸に配付し、地域住民に飛渡川の環境保全の協力をお願いした。

(4) 飛渡川リーフレットを広めよう

飛渡川の環境保全の協力をさらに広げるため、飛渡川流域にある中条小・中条中・下条小・下条中にもリーフレットを寄贈することにした。子どもたちが各学校に出かけ、校長や代表児童に手渡し、飛渡川の環境保全をお願いした。

また、以下の関係機関等にも寄贈した。

中魚沼漁業協同組合、十日町地域振興局、信濃川河川事務所、信濃川大河津資料館、十日町情報館、JR東日本、地元新聞社、飛渡公民館、地元参議院議員

その後、子どもたちの思いが周りの大人や社会を動かし、県知事や環境副大臣にもリーフレットが届き、コメントをいただくことができた。



学習発表会の様子



飛渡川リーフレット



関係機関への寄贈の様子

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

飛渡川活動を通して、子どもたちは地域の自然に興味・関心を高め、自分で考え、進んで行動する姿が見られた。また、飛渡米活動や野菜栽培活動等、他の「ふるさと環境学習」の活動でも地域の人と積極的にかかわる姿が見られた。

地域の人々の学校へのかかわりも変化が見え、支援者が大幅に増加した。また、学習発表会の参加者アンケートでは、学校の取組に対する称賛の記述が多く寄せられた。

本実践は、学校と地域との結びつきを強めるきっかけとなったととらえる。

今後は、ICT機器の活用や関係機関との連携をさらに推進し、子どもたちの生きる力をさらに伸ばしていきたい。

4 おわりに

「ふるさと環境学習」は、飛渡川活動、ブナ林活動、飛渡米活動、野菜栽培活動、サケの飼育活動の5つの柱がある。現在、病院や福祉会などとも連携し、活動の幅を広げている。新しい活動の開発や関係機関との連携強化を図り、本学習の充実をさらに推進していきたい。

現在も児童・職員数の減少、コロナ禍など、様々な困難はあるが「ふるさと環境学習」の充実を図り、少人数の学校であっても地域に信頼される学校づくりを推進していきたい。